



高度急性期医療と先進医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 社会との接点である附属病院の機能を活かし、先進的な医療の開発・導入を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ活用実証事業の推進。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- がんゲノム医療の推進。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制(インバウンド)と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制(アウトバウンド)、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育(国際医療/グローバルヘルス研究・教育)を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

最良の医療を皆様に提供できる、 未来に向けて持続的に 発展する病院を目指して

大阪大学医学部附属病院

病院長 野々村 祝夫



大阪大学医学部附属病院の基本理念は「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する」ことであり、その基本方針は、①患者さん本位の安心・安全な全人的医療の提供、②高度な医療の実践と未来医療の開発、③社会・地域医療への貢献、④豊かな人間性を持った優れた医療人の育成です。本院の職員一同が本理念の元、この基本方針を実践すべく日々の診療に当たっています。

基本理念にある「良質な医療」というのは、患者さんが安心して受けられる安全かつ高度な最新の医療です。私たち阪大病院のスタッフは、全ての診療科、部門において通常診療のみならず、がん診療、循環器診療、さらには再生医療や移植医療まで全ての領域において高度な最新医療を患者さんに安全に届けるために、診療科横断的、職種横断的なチーム医療を広く取り入れています。また、阪大病院は患者さんに最新の医療を届けるとともに、新規医療技術や新規医薬品の開発を目指して、研究や教育にも注力しています。これらの努力の結果、2015年に医療法上に位置づけられる「臨床研究中核病院」に指定されました。また、2018年にはがんゲノム医療がスタートし、阪大病院は「がんゲノム医療中核拠点病院」の認定を受けました。さらには、内閣府の主導する「AIホスピタル」事業における採択拠点として診療科横断的に医療AIの実装化に取り組んでいます。医師のみならず、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師などさまざまな医療職の育成を行っています。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、阪大病院は重症患者受け入れ施設として、大阪府からの要請に応えつつも、手術件数を減らすことなく、高度な医療を患者さんに提供し続けられた事は、まさに医療における「最後の砦」となり地域医療に貢献できたものと大変誇らしく思います。

最後に、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもと、すでに始まっている再開発事業としての統合診療棟建設について述べさせていただきます。阪大病院が現在の吹田地区に移ってすでに30年が経ちます。老朽化や二度にわたる地震の影響、さらには昨今の医療の進歩に対応するための病院機能拡充の必要性などから、再開発が必要となりました。2021年8月に着工し、全工程42か月に及ぶ大工事となります。その間、患者さんには駐車場スペースの減少や駐車場から病院玄関前の導線の悪化で大変なご迷惑をおかけいたしますが、来年5月に統合診療棟が完成することでこれまで以上に素晴らしい診療体制が整うと思いますので、どうかご理解頂きたいと思います。この新棟には、外来診療施設、手術部や放射線部、臨床検査部などの中央診療施設のほか、総合周産期母子医療センター、アイセンター、未来医療開発部など病院の高度機能を支える部門が設置されます。これまで以上に素晴らしい医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうか期待して頂きたいと思います。